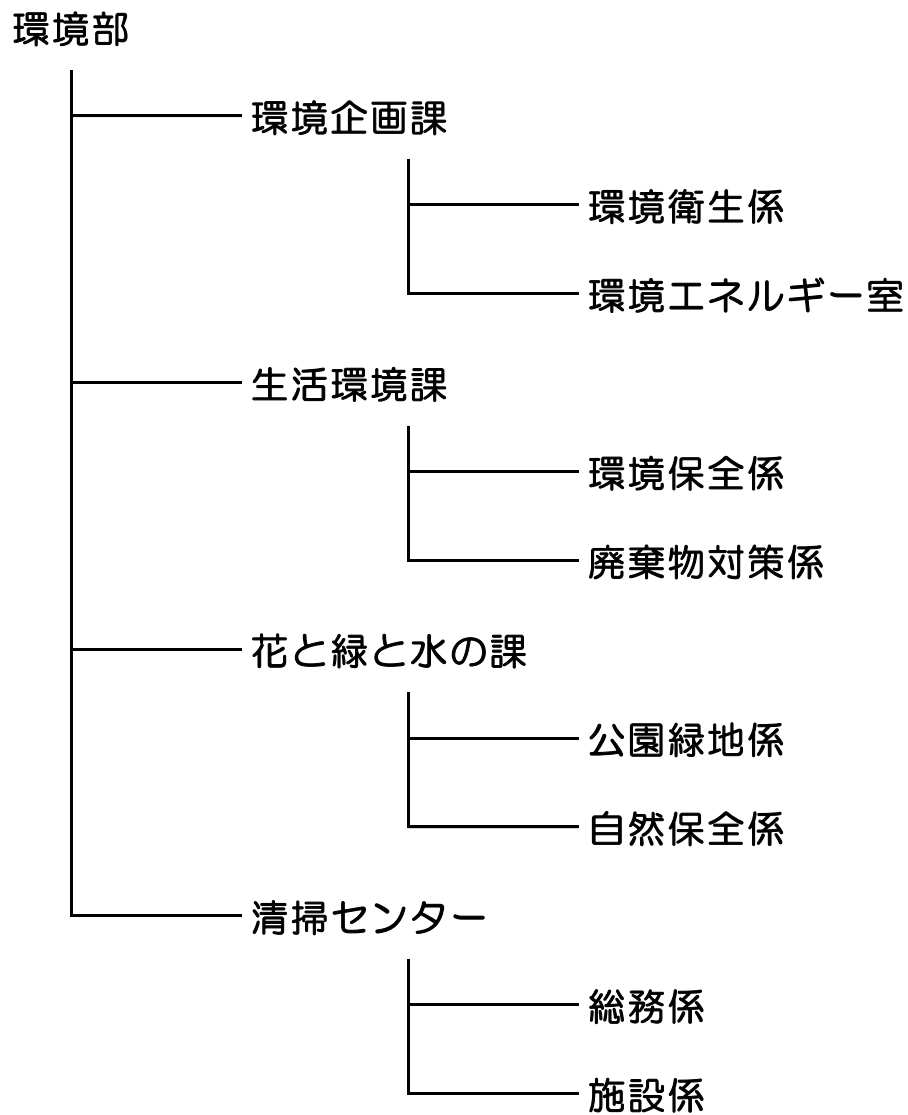


第6章 資料編

1 環境行政の組織

(1) 環境行政機構（平成31年4月1日現在）



2 公害苦情

(1) 公害苦情の年度推移

年度	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元
大気汚染	82	49	43	51	53	56	89	67	61	35	45	40	39	49	32
水質汚濁	21	26	18	13	11	21	16	15	16	14	11	21	14	17	16
騒音	24	23	29	24	21	25	24	25	22	20	20	31	31	20	14
振動	2	0	2	3	5	3	3	4	1	3	3	3	3	4	1
悪臭	33	28	28	23	21	27	20	19	19	11	18	17	15	18	24
その他	1	1	1	3	0	2	1	1	2	0	0	2	1	0	0
合計	163	127	121	117	111	134	153	131	121	88	97	114	103	108	87

(2) 公害苦情の月推移（令和元年度）

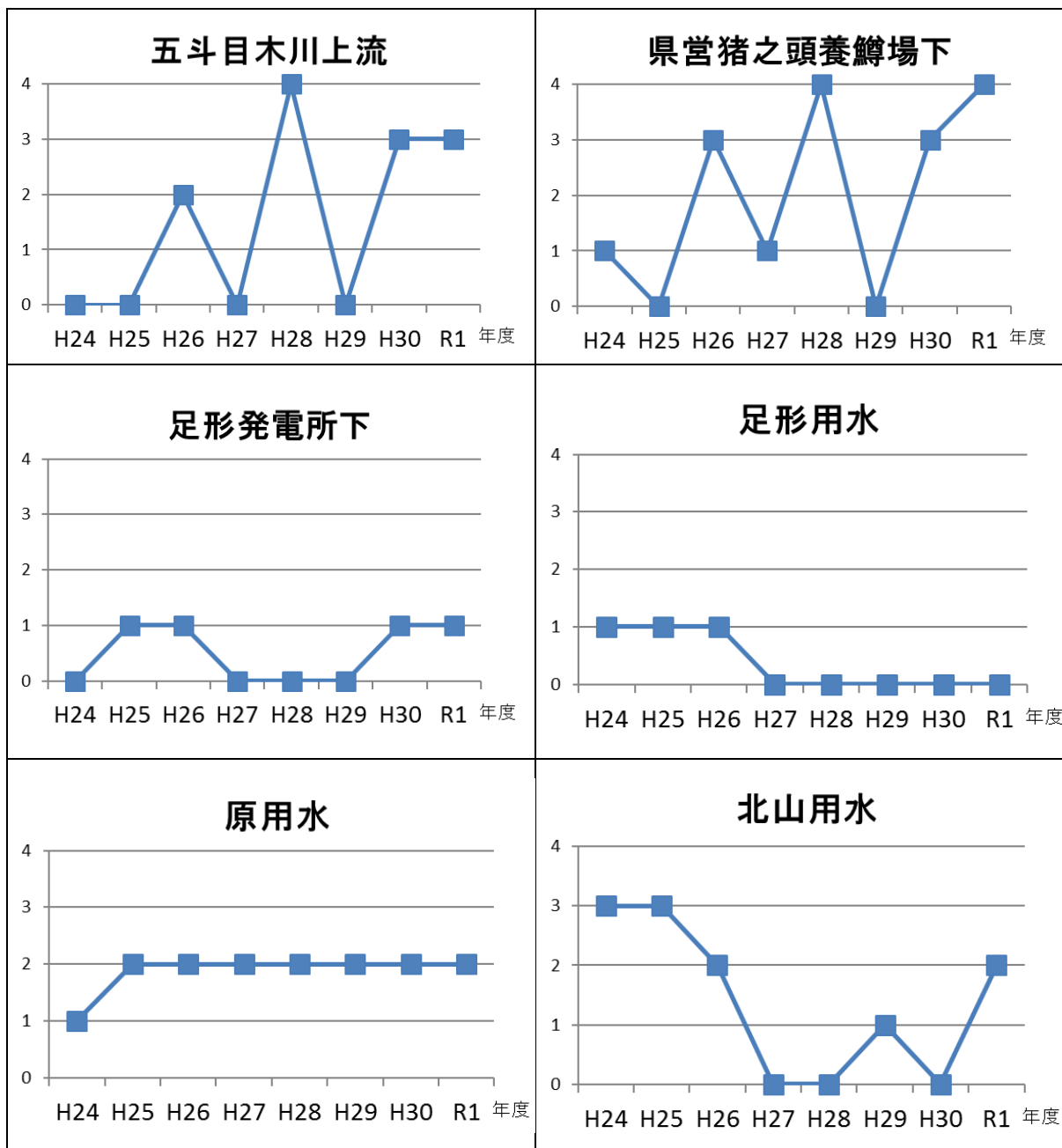
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
大気汚染	2	2	3	1	2	6	1	4	5	4	0	2	32
水質汚濁	0	1	3	1	1	1	2	2	2	0	0	3	16
騒音	0	1	2	0	1	3	2	1	1	1	1	1	14
振動	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
悪臭	3	0	2	4	4	2	3	1	0	2	2	1	24
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	5	4	10	6	9	12	8	8	8	7	3	7	87

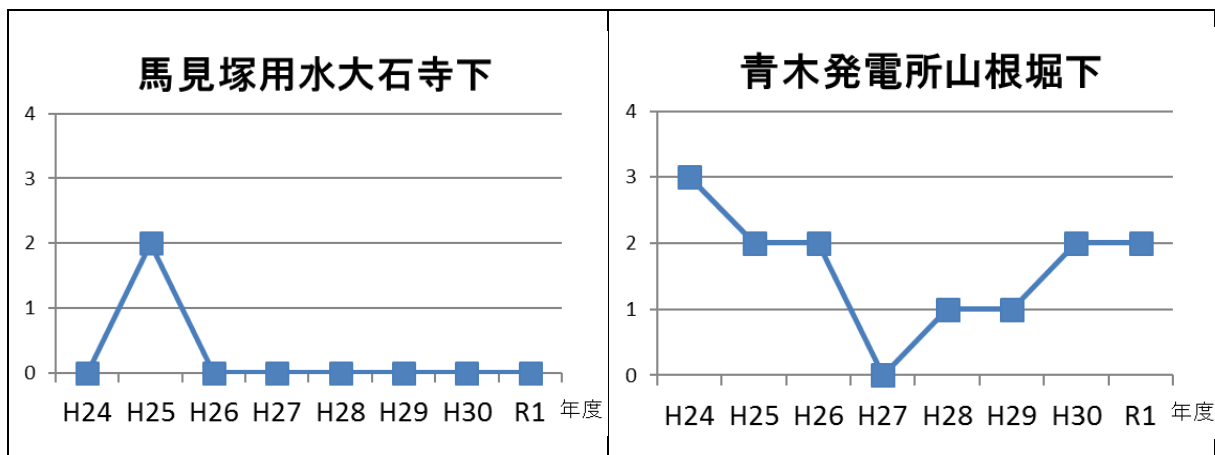
(3) 被害の種類別公害苦情件数

区分	件数	備考（苦情例）
健康	10	不眠、においによる頭痛、目やのどの痛み
財産	8	洗濯物に汚れがつく、家がかたつく
動植物	0	魚・作物への被害
感覚的・心理的	69	におい、うるさい、不快感がある
その他	0	直接被害が及ばないものの、環境悪化の不安があり相談があったもの
合計	87	

3 芝川のり付着量の推移（定点観測地点）

芝川のり調査の測定点のうち、足形用水では、ここ5年付着が確認できない状況が続いています。馬見塚用水についても、平成25年度以降付着が確認できない状況が続いています。なお、測定点のうち、狩宿用水、山宮用水、熊久保用水及び神田川湧玉池直下については、平成16年度以降、付着の確認ができない状況です。上井出用水については、平成24年度以降、付着の確認ができない状況です。

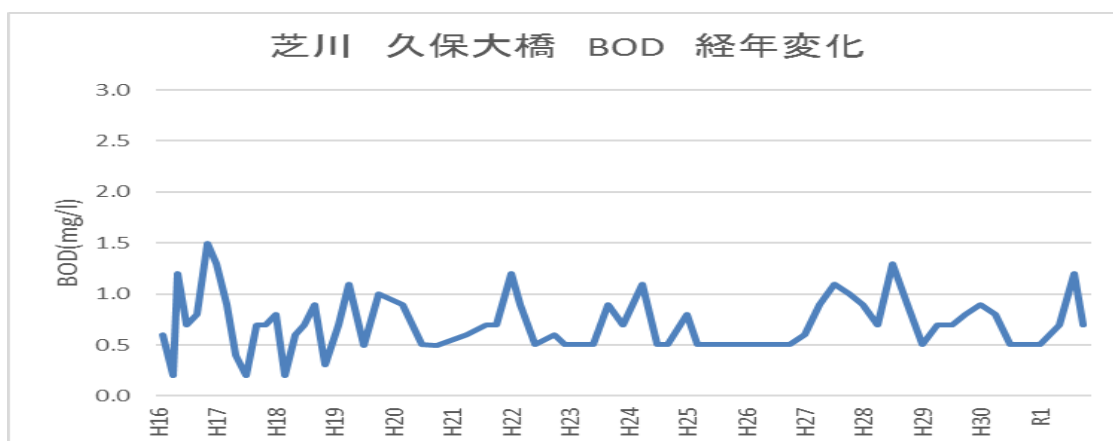
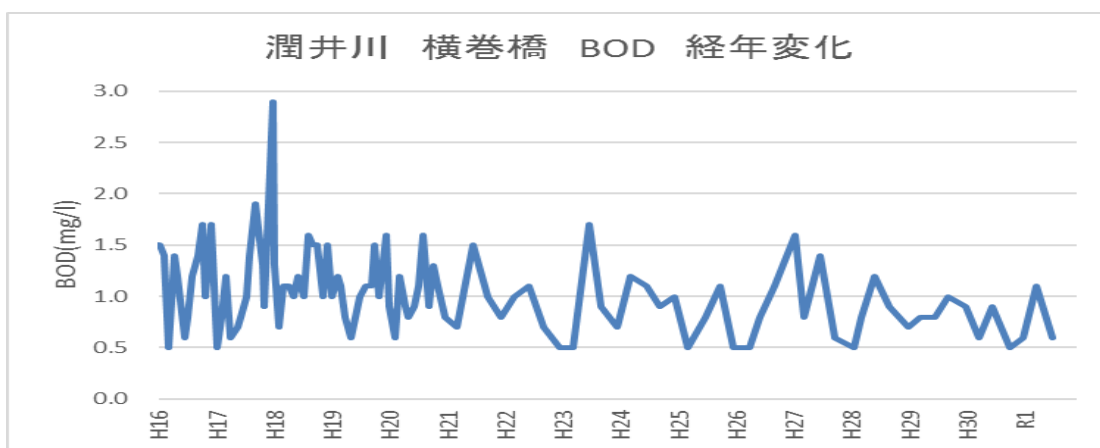




芝川のりの分布状況（数字の表示）0-確認できず 1-非常に少ない 2-少ない 3-中 4-多い

4 潤井川・芝川 水質の経年変化

富士宮市の主要河川である潤井川・芝川において、市で測定している末端地点のBOD（生物化学的酸素要求量）の経年変化は下記のとおりです。両地点において近年は基準値である2.0mg/lを下回る値で推移している状況です。



5 創エネ・蓄エネ機器等設置費補助金

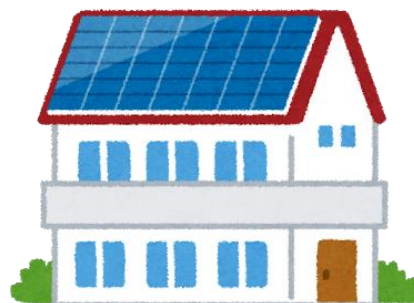
市では、二酸化炭素排出量の削減及び蓄電池等の利用による電力のピークカット、ピークシフトを推進するための太陽光発電システムや蓄電池などの設置に対し補助金交付を実施しています。

令和元年度の「創エネ・蓄エネ機器等設置費補助金」の交付件数は下記のとおりです。

(1) 一般住宅の申請の内訳

設置機器	件数
太陽光発電システム	145件
燃料電池（エネファーム）	23件
定置用リチウムイオン蓄電池	109件
ビークルトゥホームシステム	1件
HEMS	56件

設置住宅の状況	件数
既築	126件
新築	97件
建売	3件
店舗併用	0件
合計	226件



(2) 創エネ・蓄エネ機器等設置費補助金の対象機器及び補助金額

補助対象機器	補助金額
太陽光発電システム（10kW未満）	1kW当たり2万円
燃料電池（エネファーム）	上限10万円
ガスコージェネレーションシステム（エコウィル）	上限10万円
定置用リチウムイオン蓄電池	上限10万円
ビークル・トゥ・ホームシステム	上限5万円
クリーンエネルギー自動車 （ただし、ビークル・トゥ・ホームシステムと同時購入の場合のみ）	上限5万円
HEMS	上限5万円
自治会集会所 （太陽光発電システムとリチウムイオン蓄電池）	上限150万円